



# YAMAHA

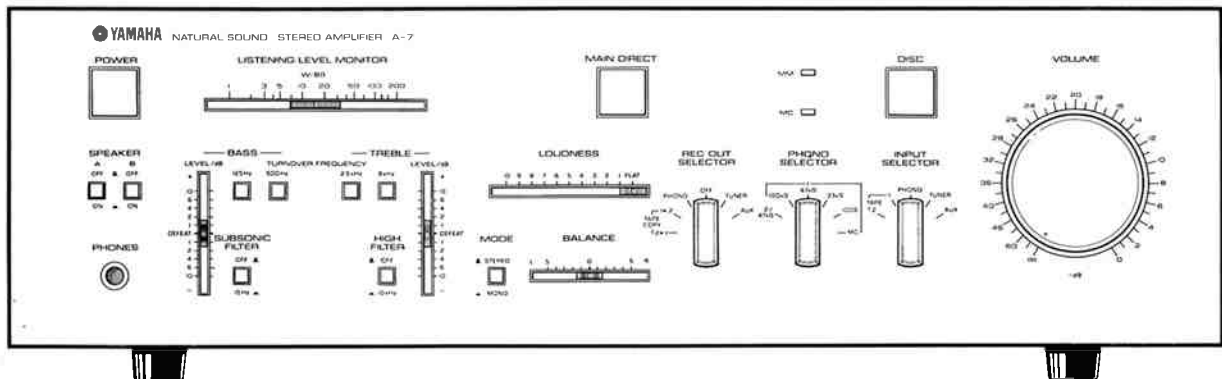
## NATURAL SOUND

### STEREO PRE-MAIN AMPLIFIER

# A-7



## 取扱説明書



# 特長

このたびは、ヤマハ・ステレオプリメインアンプA-7をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

A-7の優れた性能を十分に発揮させると共に、長年支障なくお使いいただくために、この取扱説明書をご使用前にぜひお読みくださいますようお願いいたします。

## ■特長

- アンプの出力に応じて入力電源の通電時間をコントロールすることにより、出力電圧を一定にし、電力を効率良く活用させるX電源（フェーズアングルコントロール）を採用。小型軽量にもかかわらず120W+120Wの大出力を低歪率（0.007%）で余裕をもってとり出しています。
- 超ローノイズ・デュアルFET使用のイコライザーアンプ部は、高SN比、低歪率を実現。さらに電源とアースのインピーダンスを切り離して音質や特性に影響を与えないピュアカレントサーボアンプで動作させています。また、ハイゲインのパワーアンプ部はDCアンプで構成され、PHONO入力からSP出力までオーバーオールで低歪率、高安定度を実現しています。
- カートリッジに対する最適負荷インピーダンスが選べるPHONOセレクターを装備。カートリッジの特性をフルに引き出します。さらに、ゲイン切り換え式イコライザーアンプによりMCカートリッジも直接使用できます。

## ■目次

特長	1
ご使用になる前に次のことにご注意ください	2
接続図／接続上のご注意	3
各部の名称と機能／付属品	5
ブロックダイアグラム	10
参考仕様	11
故障と思われるときには	12
サービスのご依頼について	13

- リスニングレベルモニターを内蔵。セットする出力値でLEDが点灯し、リスニングレベルの確認ができます。
- 音量の基準を自分で決められるコンティニュアス・ラウドネスコントロールを採用。多種多様なラウドネス効果が得られ、音量と音場による自然な聴感補正が可能です。
- REC OUTセレクターにより、再生中のプログラムとは関係なく別のプログラムを録音したり、テープのダビングをするなどのダブルアクションが可能です。
- ターンオーバー周波数切り換え型トーンコントロール回路は、高性能オペアンプを使用し性能を大幅に向上させています。また、ヤマハ独自のMAIN DIRECTスイッチやDISCスイッチを備えており、ワンタッチで信号経路をシンプルにすることもできます。

# ご使用になる前に次のことにご注意ください



## 設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、音質が悪化したり故障などの原因となります。ご注意ください。

- 窓際など直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所
- 温度の特に低い場所
- 湿気やホコリの多い場所
- 振動の多い場所

※トランスやモーターの近くの設置は誘導ハムをひろう原因となりますので、離して設置してください。



## 水に濡れたら

万一雨が降ったり、花びんなどの水をセットにこぼした時は、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。



## ケースを開けない

トップカバーや底板を開けて内部に手などを入れると、故障や感電事故を起こすことがあります。何か異物が入ったときには、すぐ電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。



## 落雷に対する注意

落雷のおそれのある時には、早めにコンセントから電源プラグを抜きとってください。



## セットのお手入れには

セットをベンジンやシンナー系の液体で拭いたり、近くでエアゾールタイプの殺虫剤を散布したりすることは避けてください。

お手入れは、必ず柔らかい布で乾拭きするようにしてください。



## 電源コードも大切

コードの断線やショートを防ぐため、電源プラグをコンセントから抜く時は、コードを引っばらないで必ずプラグを持って抜いてください。

本機は国内仕様です。電源プラグは必ずAC100Vのコンセントに接続してください。

※大出力で本機をご使用の際は必ず専用コンセントを用いてください。



## 入出力コードを抜き差しする場合

クリックノイズによるスピーカーの破損を防止するため、接続コードの抜き差しは、本機の電源スイッチを切ってからおこなってください。



## 予備電源コンセント

背面パネルのAC OUTLETSの容量はSWITCHEDが100W (TOTAL)、UNSWITCHEDが200Wとなっております。接続する機器の消費電力を確かめて容量以上の消費電力を持った機器は絶対に接続しないでください。



## セットの移動

セットを移動する場合は、接続コードのショートや断線を防ぐため必ず電源プラグを抜き、他の機器との接続コードをはずしてから動かしてください。



## セット上面の通風孔をふさがない

放熱を妨げないため、セット上面の通風孔の上にビニールの敷き物などを絶対に置かないでください。



## もう一度調べてください

故障かな?と思ったら、まず12ページの“故障と思われるときは”をご覧ください。意外なところで操作を誤っていることがあります。



## 保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをおこなってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくこととなりますので、充分ご注意ください。



## 保管してください

この取扱説明書をお読みにになりました後も、保証書とともに大切に保管してください。



これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

## 音楽を楽しむエチケット

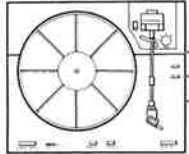
楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

# 接続図/接続上のご注意

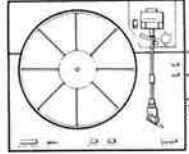
## ■接続図

※接続の際は、各機器の電源を切り、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)を確認して接続してください。

レコードプレーヤー1  
(MM/MCカートリッジ付)



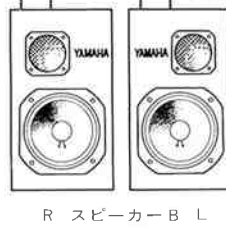
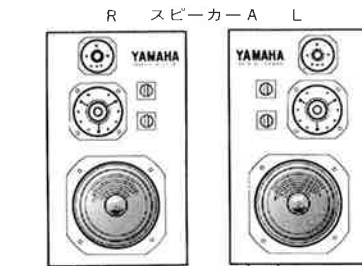
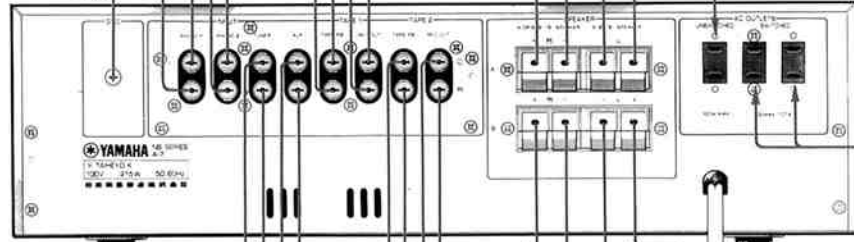
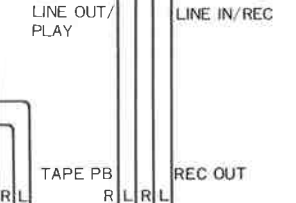
レコードプレーヤー2  
(MMカートリッジ付)



A-7  
リヤパネル



チューナー  
TV音声チューナー又は  
その他の機器



他の機器の電源プラグ  
(200Wまで供給でき、A-7の  
POWERスイッチとは関連あ  
りません。)

他の機器の電源プラグ  
(合計で100Wまで供給でき、  
A-7のPOWERスイッチと連  
動します。)

AC100V 50/60Hz  
コンセント

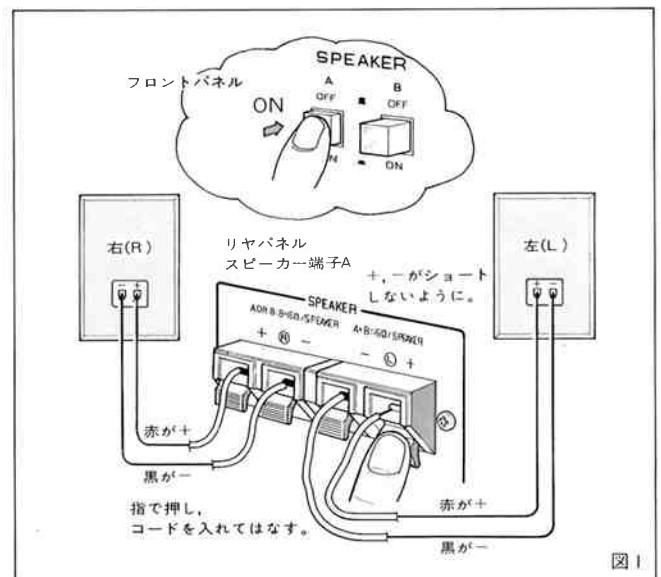
## ■スピーカーシステムの接続

2組のスピーカーシステムが接続できます。フロントパネルのSPEAKER (A, B) スイッチでA, B単独にも、2組同時に使うこともできます。

※ただし、定格入力(入力感度値)時にフルパワー近くで長時間にわたってご使用になる場合は、次のように、使用スピーカーシステムのインピーダンスにご注意ください。  
※A, B単独使用の場合は、スピーカーのインピーダンスが8Ω以上のものを、2組同時使用の場合は各インピーダンスが16Ω以上のものを使用してください。

1. スピーカーシステムの左右とSPEAKER端子AのⓁ(R)、及び極性+, - (赤が+, 黒が-)を確認して接続します。まちがえて接続しますと、低音のそこなわれた不自然な再生音になってしまいます。
2. 接続は図のようにレバーを押し、スピーカーコードの芯線部分をさし込み、レバーを離してロックします。また、スピーカーコードはできるだけ短かく、左右の長さを等しく配線してください。

3. もう一方のSPEAKER端子Bにも同様にして、もう一組のスピーカーシステムが接続できます。



### ■レコードプレーヤーの接続

1. PHONO 1端子には、MM型 (IM, MI型)、MC型のどちらのカートリッジが付いたプレーヤーでも接続できます。その選択はフロントパネルのPHONOセレクターで行ない、負荷インピーダンスも選べます。
  2. PHONO 2端子はMM型 (IM, MI型) カートリッジ専用で、負荷インピーダンスも47kΩに固定されています。
- ※プレーヤーの出力コードのL, Rを確認しPHONO 1, 2端子に接続し、アース線をGND端子に接続します。アース線を接続してハムなどの雑音が出る場合は、アース線の接続はしないでください。

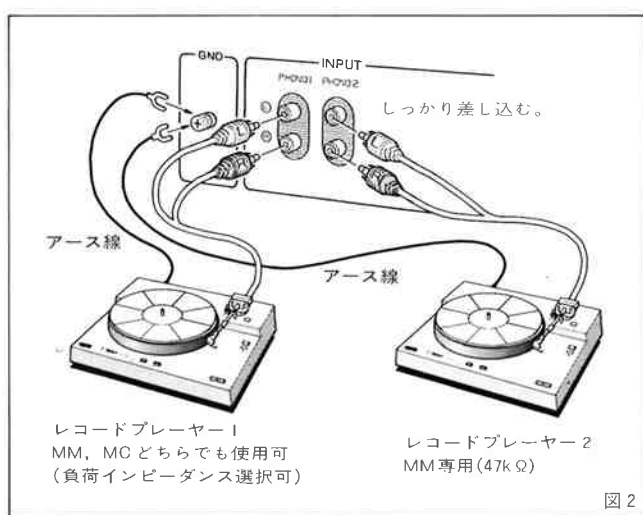


図2

### ■テープデッキの接続

1. テープデッキのLINE IN (録音入力) 端子と、TAPE 1のREC OUT端子のL, Rを確認して接続します。次に、テープデッキのLINE OUT (再生出力) 端子と、TAPE 1のTAPE PB端子を同様に接続します。
2. TAPE 2端子にも同様にもう1台のテープデッキを接続できます。

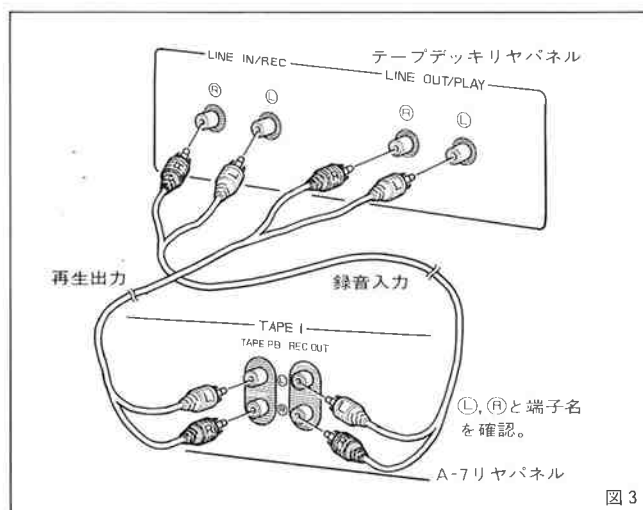
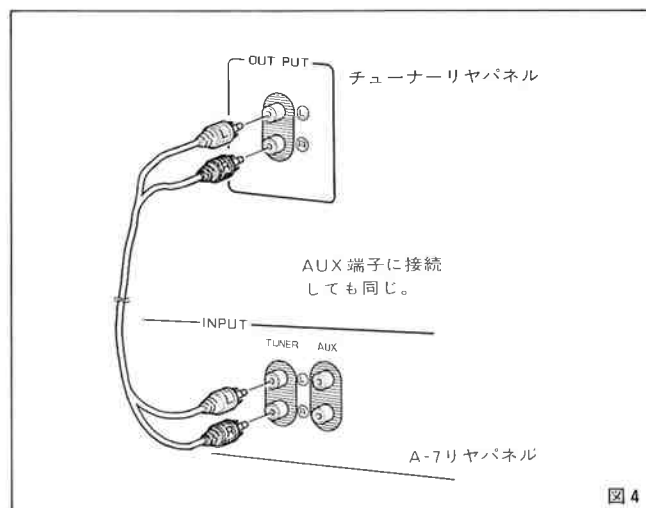


図3

### ■チューナーの接続

チューナーの出力端子と本機のTUNER端子のL, Rを確認し接続コードで接続します。



### ■AUX端子への接続

AUX (補助入力) 端子には、FM/AMチューナーやテレビの音声チューナーをはじめ、8トラックテーププレーヤーなどが接続できます。

### ■AC OUTLETS (予備電源コンセント)への接続

1. 消費電力が100W以下の機器の電源コードを本機のAC OUTLETSのSWITCHEDに接続し、電源スイッチをONにしておきますと、本機の電源スイッチと連動させて電源のON, OFFができます。

※SWITCHEDのコンセントは両方で100Wまでです。接続機器の消費電力を確認し、必ず100W以下で使用してください。

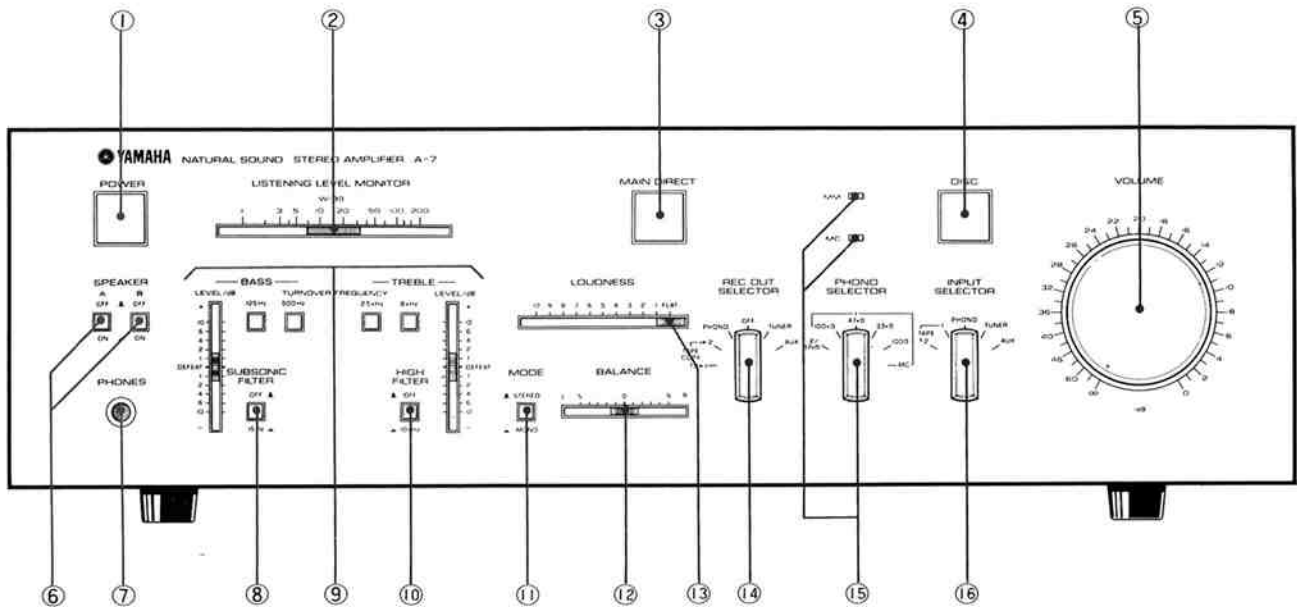
2. UNSWITCHEDには消費電力200W以下の機器が接続でき、本機の電源スイッチとは関係ありません。

### ■その他の注意

1. 本機の電源コードの近くにチューナーのAMアンテナ (ループアンテナあるいはバーアンテナ等) が接近するようなセッティングは避けてください。ハムなどのノイズの原因になります。
2. 接続コード間での悪影響防止のため、各コードはできるだけ交わらないよう離してください。
3. 本機は、放熱を妨げない場所にセットしてください。

# 各部の名称と機能/付属品

## ■フロントパネル



### ①電源スイッチ (POWER)

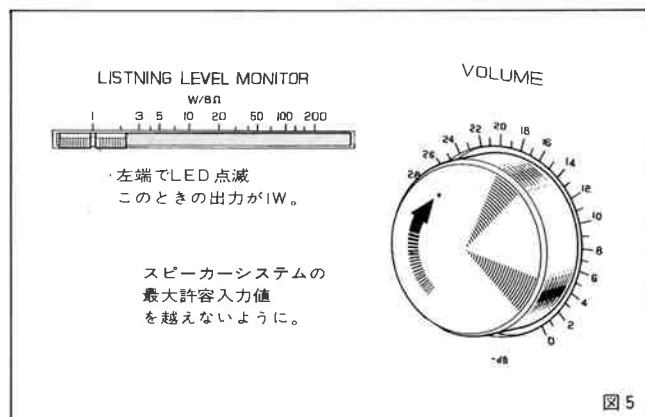
プッシュON, プッシュOFFタイプで、ONにしますとスイッチ内のランプが点灯します。

電源のON後数秒間は、電源を入れたときのポップノイズを取り除くミュート回路が働き、音は出ません。

※電源を入れるときは、必ずVOLUME ⑤で音量を最小にし、スピーカーから不用意に大きな音が出ないようにご注意ください。

### ②リスニングレベルモニター (LISTENING LEVEL MONITOR)

つまみ中央にLEDが点滅し、Lch(左), Rch(右)のリスニングレベル(出力)の大きい方のピークをワット(W/8Ω)数で表示します。



つまみを左端にしておき、VOLUME ⑤で音量を上げていくと、LEDが点滅し始めます。この時のLchあるいは

Rchの出力が約1Wです。逆に、音量を上げておきつまみを右にスライドさせるとそのときの出力がわかります。VOLUMEと合わせて、出力レベルの監視や設定にお役立てください。

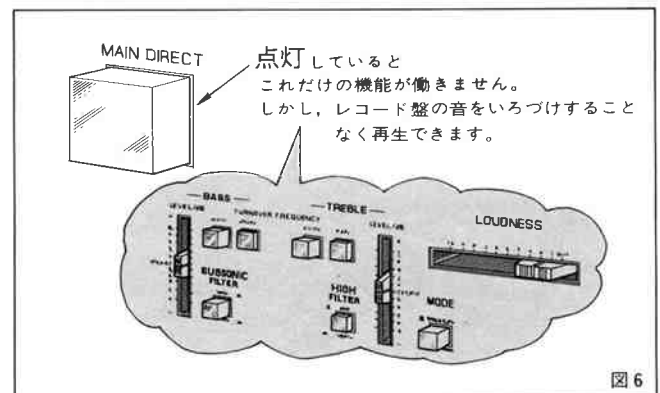
### ③メインダイレクトスイッチ (MAIN DIRECT)

スイッチONで内部にランプが点灯し、次の機能

- BASS, TREBLE及び各ターンオーバー周波数スイッチ⑨
- SUBSONIC, HIGHの各フィルター⑧, ⑩
- MODE⑪, LOUDNESS⑬

がバイパスされ、PHONO端子からの信号経路はイコライザーアンプとハイゲインDCパワーアンプのみの極めてシンプルな回路構成となり、音質劣下の原因となりやすいトーンコントロールアンプやスイッチ類を完全にパスするため、特性もよりフラットになりクオリティの高い再生音を得ることができます。

逆に、スイッチONの状態では上記各機能は働きません。



#### ④ ディスクスイッチ (DISC)

スイッチ ON で内部にランプが点灯し、下の INPUT セレクター⑬に関係なくレコード (DISC) 再生に切り換わります。つまり、スイッチ ON で本機はディスク専用アンプとなり、MAIN DIRECTスイッチ③との併用で、さらにクオリティの高いレコード再生ができることになります。

※このスイッチONでもREC OUTセレクター⑭は働きますので、テープへの録音やダビング (複写) は行なえます。

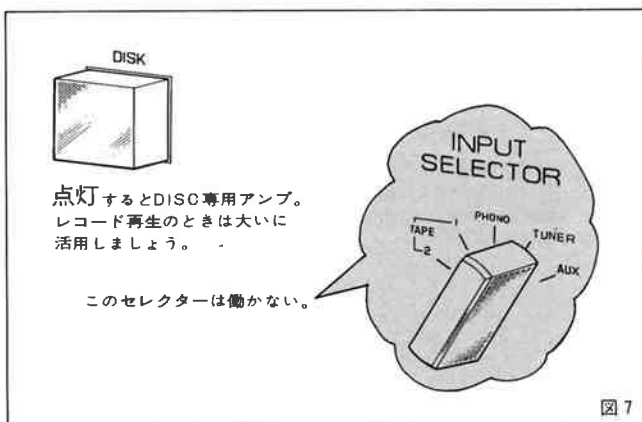


図7

#### ⑤ 音量調整つまみ (VOLUME)

全体の音量を調整するつまみで右に回すほど音量が大きくなります。

※電源スイッチをはじめ各スイッチを切り換えるときや、レコード面上に針先を降ろすときなどは必ず音量を最小にして行うようにしてください。

#### ⑥ スピーカースイッチ (SPEAKER)

リヤパネルのSPEAKER端子A, Bに接続されたスピーカーシステムを選びます。A, B別々にも、A, B両スイッチをONにしA+Bで聴くこともできます。

ヘッドホンでお聴きになる場合は、A, B両方共OFFにしてください。

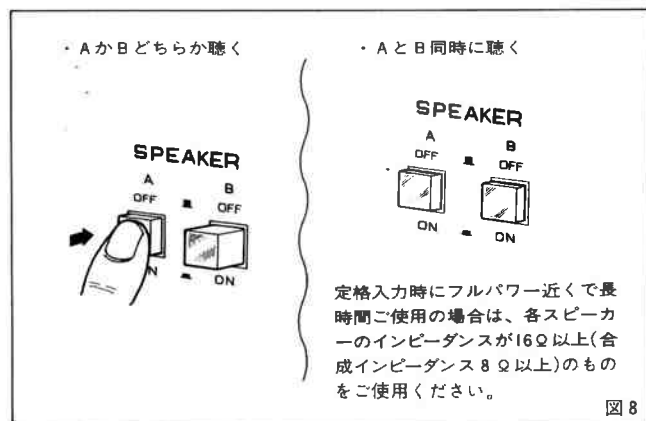


図8

#### ⑦ ヘッドホンジャック (PHONES)

ヘッドホンのプラグを差し込みます。ヘッドホンだけでお聴きになるときはSPEAKERスイッチ⑥A, B両方OFFにしてください。

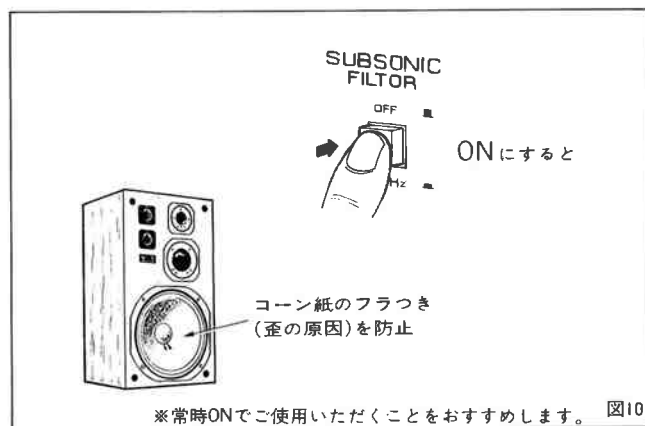
ヘッドホンはL, Rを確認して正しくお使いください。



図9

#### ⑧ サブソニックフィルター (SUBSONIC FILTER)

スイッチを押しますと、通常は音楽再生に必要な15Hz以下の可聴範囲外の超低域ノイズをカットし、レコード盤のそりなどによるスピーカーのコーン紙のフラつきを防止します。下の特性図を参照してください。



※常時ONでご使用いただくことをおすすめします。 図10

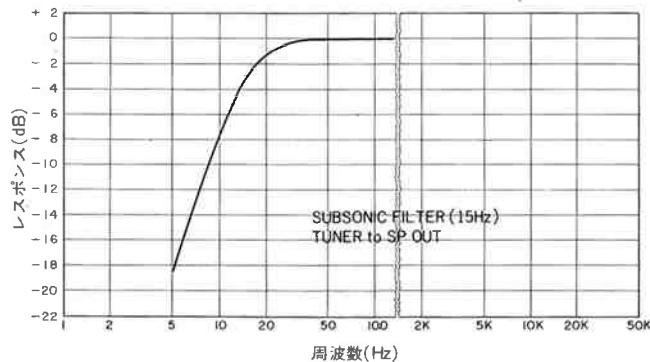


図11

⑨低音調整(BASS)、高音調整(TREBLE)ツマミ

低音は、BASSスライドツマミとターンオーバー周波数(TURNOVER FREQUENCY) 125Hz, 500Hzの選択によって調整します。

スライドツマミがDEFEAT位置でフラット、上に上げるほど低音が強調され、下げるほど減衰されます。

高音調整についても同様で、スライドツマミとターンオーバー周波数2.5kHz, 8kHzの選択によって行ないます。

※ターンオーバー周波数を切り換えたときの特性の違いをBASS, TREBLEについて載せておきます。

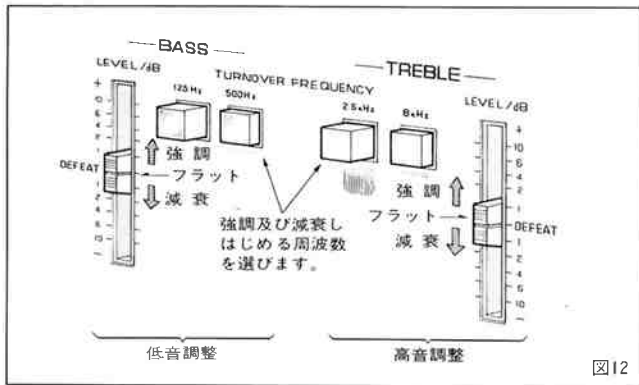


図12

●BASSコントロール特性

ターンオーバー周波数 125Hz

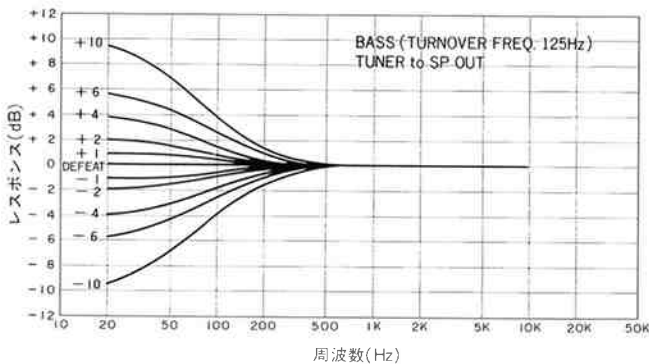


図13

ターンオーバー周波数 500Hz

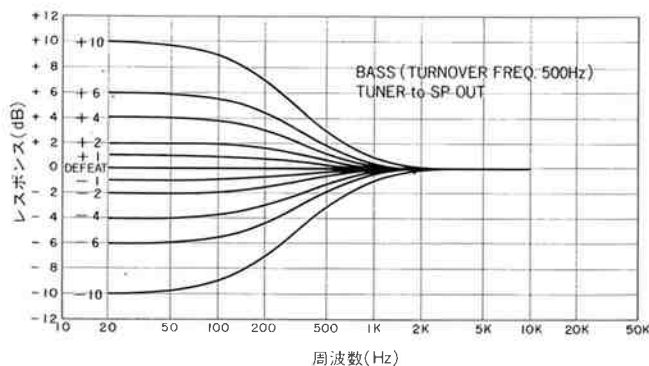


図14

●TREBLEコントロール特性

ターンオーバー周波数 2.5kHz

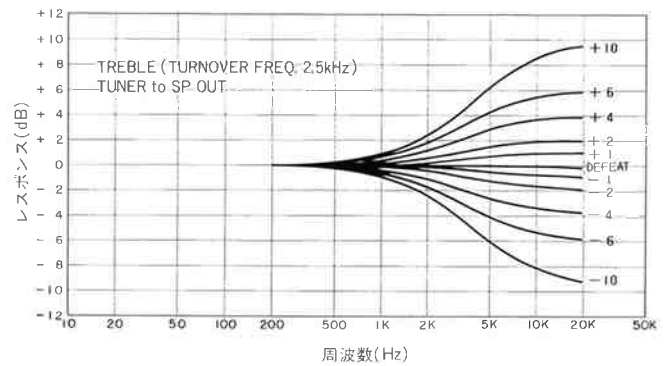


図15

ターンオーバー周波数 8kHz

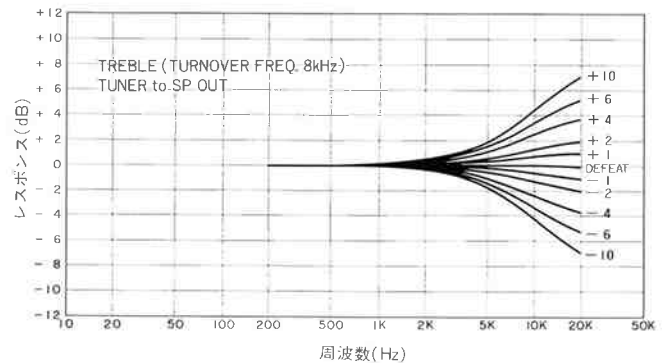


図16

⑩ハイフィルター (HIGH FILTER)

スイッチを押しますと、レコードのスクラッチノイズなど、10kHz以上の高域ノイズを取り除くことができます。必要な信号への影響はありませんが、通常はOFFにしておいてください。特性図を参照してください。

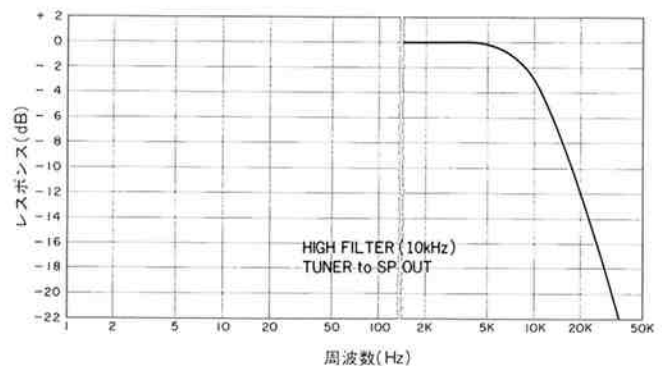


図17

⑪モードスイッチ (MODE)

プログラムソースのモードを選択します。STEREOでは通常のステレオで再生され、MONOではモノラルで再生されます。



⑫ バランスコントロール (BALANCE)

つまみを右(R)にスライドさせると左の音が小さくなり、左(L)にスライドさせると右の音が小さくなります。左右のバランスをとる場合は、MODE ⑪をMONOにして左右のスピーカーからの音が中心に聞こえるように調整します。調整後はMODEをSTEREOに戻しておきます。

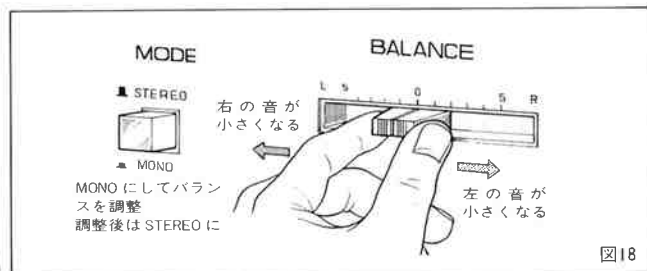


図18

⑬ ラウドネスコントロール (LOUDNESS)

人間の聴覚には、音量が小さくなるにつれて低音と高音が聞こえにくくなるという特性があります。これを補正するのがラウドネスです。一般のラウドネスは、ボリュームの回転角度により低域と高域が強調されるため、スピーカーの能率や音量、部屋の状態によっては不自然な補正となる場合がありますが、本機ではコンティニユアスラウドネスを採用し、音量の基準を自分で決められるため、自分の聴く音場と音量に従って多種多様なラウドネス効果を得ることができます。

●操作方法

1. スライドつまみをFLAT (右端) にしておき、ご自分の再生装置の最適な音量になるまでVOLUME ⑤で音量を上げてみます。この位置がラウドネスの基準の状態となります。
2. スライドつまみを左にスライドさせていくと音量が下がりますので、お聴きになる音量まで下げていきます。

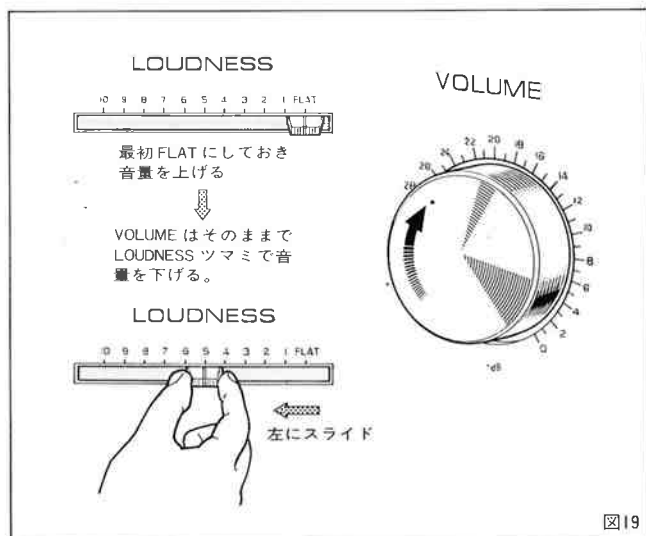


図19

それに従いラウドネス効果は強調されていきます。

3. これでご自分のお聴きになる音量に応じたラウドネス補正ができたこととなります。特性は下のように変化していきます。

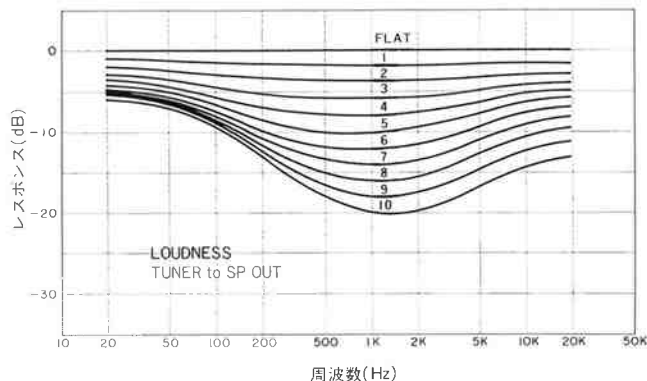


図20

⑭ 録音出力セクター (REC OUT SELECTOR)

接続されているテープデッキに録音するためのプログラムソースを選択します。INPUTセクター⑯に関係なく、接続されているプログラムソースを選んで録音することができます。

例えば、レコードを聴きながらREC OUTセクターをTUNERにしてFM放送を録音したり、テープのダビング(複写)をするなどのダブルアクションができます。OFFの位置では録音できません。

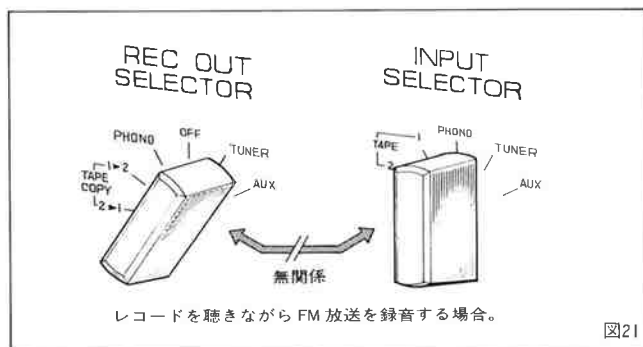


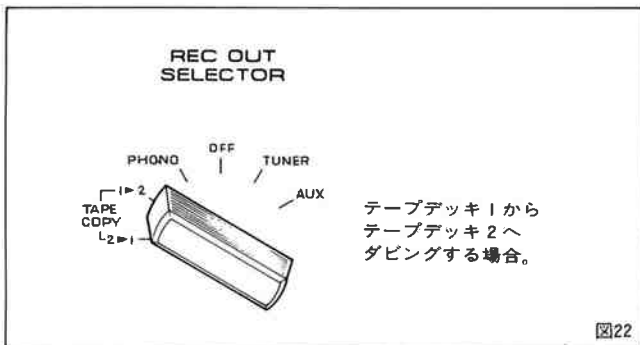
図21

●ダブルアクションの主な操作例

INPUT セクター	REC OUT セクター	ダブルアクション
PHONO	TUNER	レコードをスピーカーで聴きながらFMまたはAM放送を録音できます。
TUNER	TUNER	FMまたはAM放送をスピーカーで聴きながら同時に録音できます。
PHONO	PHONO	レコードをスピーカーで聴きながら同時に録音できます。
TUNER	PHONO	FMまたはAM放送をスピーカーで聴きながらレコードを録音できます。

●テープのダビング(複写)

リヤパネルTAPE 1端子に接続のテープデッキ1から、TAPE 2端子に接続のテープデッキ2へダビングする場合  
 1.REC OUTセレクターをTAPE COPY 1▶2にします。  
 2.テープデッキ1を再生、テープデッキ2を録音状態にします。  
 テープデッキ2からテープデッキ1へのダビングも同様にして、REC OUTセレクターをTAPE COPY 2▶1にし、上記2の録音と再生を逆の状態にします。



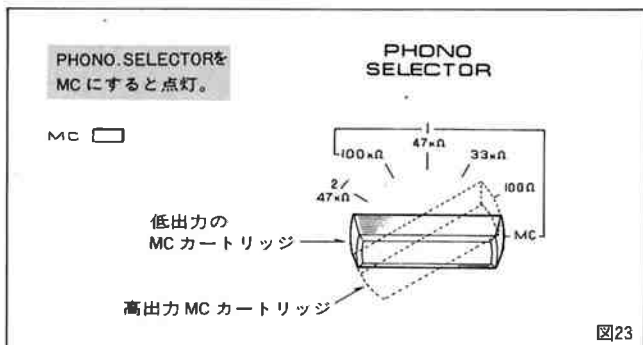
⑮フォノセレクター(PHONO SELECTOR)

及びフォノインジケータ

接続されている2台のレコードプレーヤーの選択と、カートリッジ及びその負荷インピーダンスを切り換えます。MCポジションでは、フォノインジケータMC側が、それ以外のポジションではMM側が点灯し、カートリッジの種類を表示します。(下図23を参照してください)

●PHONO 1端子に接続のプレーヤーが

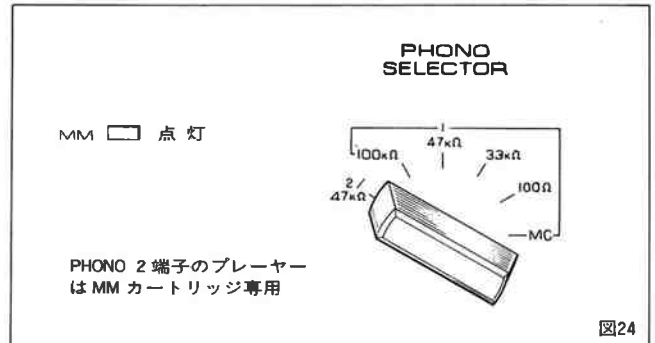
- 1.低出力MC型カートリッジ付きの場合はPHONOセレクターをMCポジションに、高出力MC型の場合は100Ωポジションにします。
- 2.MM型(IM, MI型) カートリッジ付きの場合は、カートリッジメーカー指定の最適負荷インピーダンス値(あるいは近い値)に合った値を33kΩ, 47kΩ, 100kΩの中から選んでください。また、負荷インピーダンスを変えると周波数特性が多少変化しますので、お好みの音にセットすることもできます。



※PHONO 1端子にMM型等高出力カートリッジの付いたプレーヤーを接続し再生しているとき、PHONOセレクターをMCポジションにすると急激に音量が変化し、スピーカーに悪影響を与えますのでご注意ください。

●PHONO 2端子に接続のプレーヤーは

MM型(IM, MI型) カートリッジ専用となり、負荷インピーダンスも47kΩに固定されています。PHONOセレクターを2/47kΩポジションにしてご使用ください。

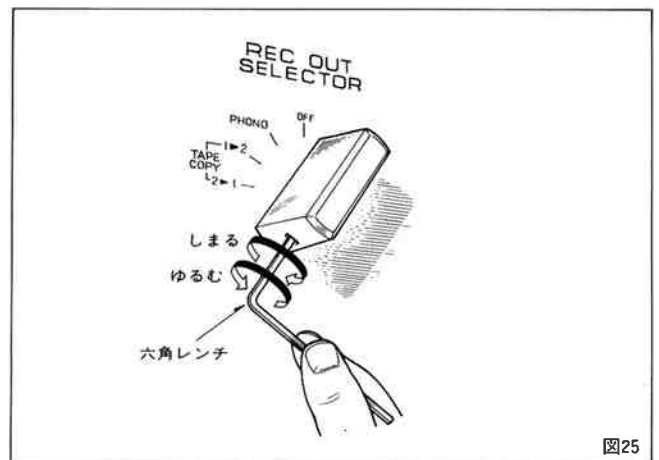


⑯入力セレクター(INPUT SELECTOR)

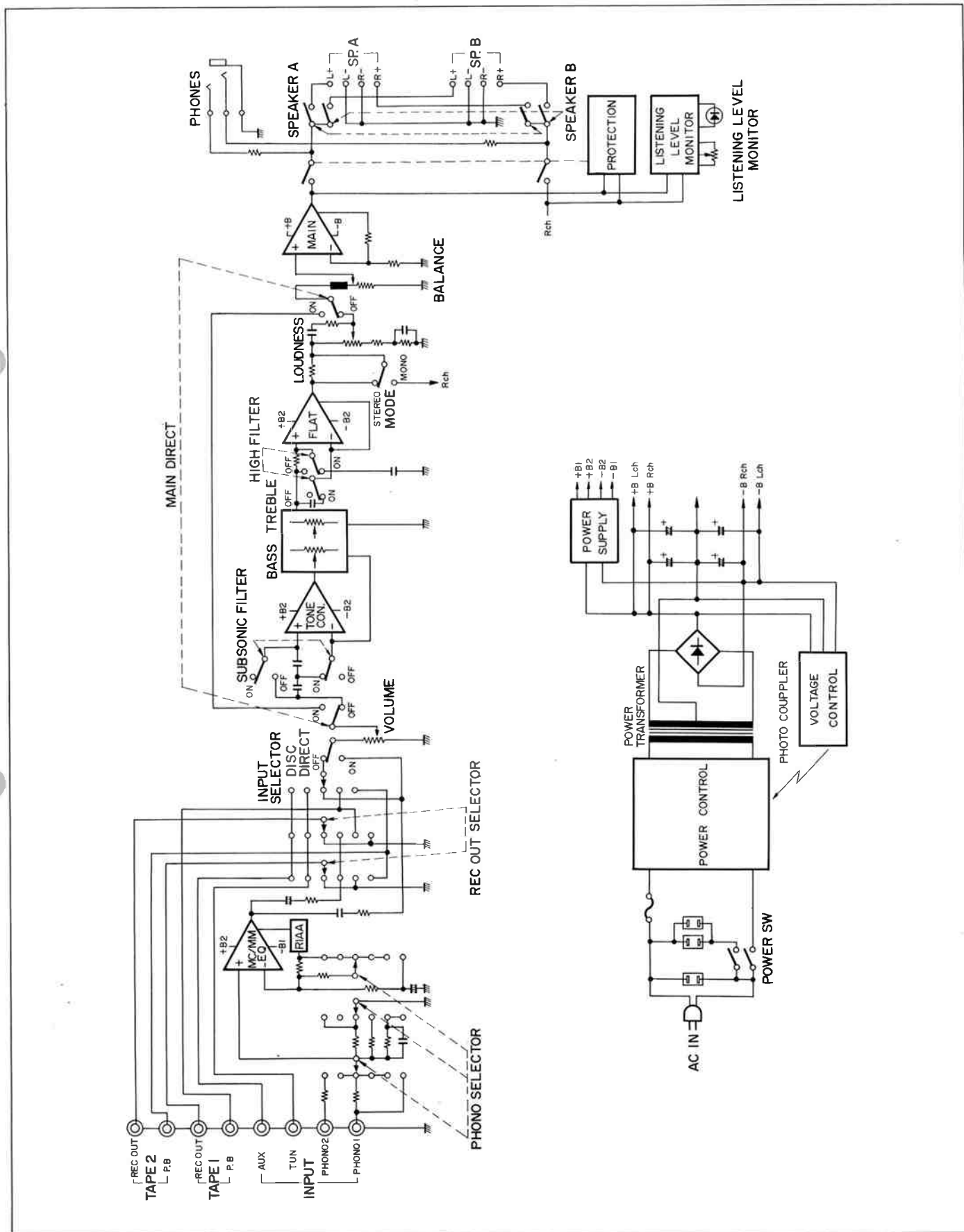
リヤパネルのINPUT端子に接続されているプログラムソースを選択します。お聴きになりたいプログラムソースに合わせて切り換えてください。

■付属の六角レンチについて

六角レンチは、REC OUT, PHONO及びINPUTの各セレクターツマミの位置がずれたり、ゆるんできたときこれを固定する際に使用します。



# ブロックダイアグラム



# 参考仕様

## 定格出力

20Hz～20kHz, 0.007%, 8Ω 負荷……………120W+120W  
 パワーバンド幅 (0.02%, 60W/8Ω)……………10Hz～50kHz  
 ダンピングファクター (1kHz, 8Ω)……………55

## 入力感度/インピーダンス

PHONO MC……………160 $\mu$ V/100Ω  
 MM……………2.5mV/100kΩ, 47kΩ, 33kΩ, 100Ω  
 AUX, TAPE, TUNER……………150mV/47kΩ

## 最大許容入力 (0.01%, 1kHz)

PHONO MC……………15mV  
 MM……………250mV

## 出力電圧/出力インピーダンス (1kHz)

REC OUT……………150mV/600Ω

## ヘッドホン出力/

負荷インピーダンス (0.01%)……………0.89V/8Ω  
 8.4V/100Ω

## 周波数特性 (MAIN DIRECT ON)

AUX, TAPE, TUNER……………20Hz～20kHz  $-0.2$ dB

## RIAA偏差 (20Hz～20kHz, RIAA)

PHONO MC…………… $\pm 0.3$ dB  
 MM…………… $\pm 0.2$ dB

## 全高調波歪率 (20Hz～20kHz)

PHONO MC→REC OUT (7V)……………0.006%  
 MM→REC OUT (10V)……………0.003%

## AUX, TAPE, TUNER→SP OUT

(60W/8Ω, MAIN DIRECT ON)……………0.005%

## 混変調歪率 (60Hz : 7kHz = 4 : 1, MAIN DIRECT ON)

AUX, TAPE, TUNER; 定格出力/8Ω……………0.002%  
 1W/8Ω……………0.01%

## SN比 (IHF Aネットワーク, 入力ショート)

PHONO MC……………71dB (250 $\mu$ V基準)  
 MM……………87dB (2.5mV基準)

AUX, TAPE, TUNER……………103dB

## 入力換算雑音 (IHF Aネットワーク)

PHONO MC……………-143dBV  
 MM……………-139dBV

## 残留ノイズ (IHF Aネットワーク)……………245 $\mu$ V

## チャンネルセパレーション (1kHz, Vol. -30dB, 5.1kΩ)

PHONO MC……………70dB  
 MM……………70dB  
 AUX, TAPE……………70dB

## トーンコントロール可変幅

BASS (ターンオーバー周波数125Hz, 500Hz)  
 …………… $\pm 10$ dB (20Hz, ターンオーバー500Hz)

TREBLE (ターンオーバー周波数2.5kHz, 8kHz)  
 …………… $\pm 9.5$ dB (20kHz, ターンオーバー2.5kHz)

## リスニングレベルモニター……………1W～200W (8Ω)

(スライドVRにより、各設定ポイント)  
 のピークレベルでLED点灯

## フィルター特性

SUBSONIC FILTER……………15Hz, 12dB/oct.

HIGH FILTER……………10kHz, 12dB/oct.

## コンティニューアスラウドネスコントロール

最大補正量 (聴感補正カーブによる)……………20dB (1kHz)

## ゲイントラッキングエラー……………2dB

## スルーレート……………200V/ $\mu$ sec

## 使用半導体数……………トランジスター; 67

IC; 4

FET; 8

LED; 3

ダイオード; 40

## 定格電源電圧, 周波数……………AC100V, 50/60Hz

## 定格消費電力……………215W

## ACアウトレット

SWITCHED……………total 100W max, 2個

UNSWITCHED……………200W max, 1個

## 外型寸法 (W×H×D)……………435×133×365mm

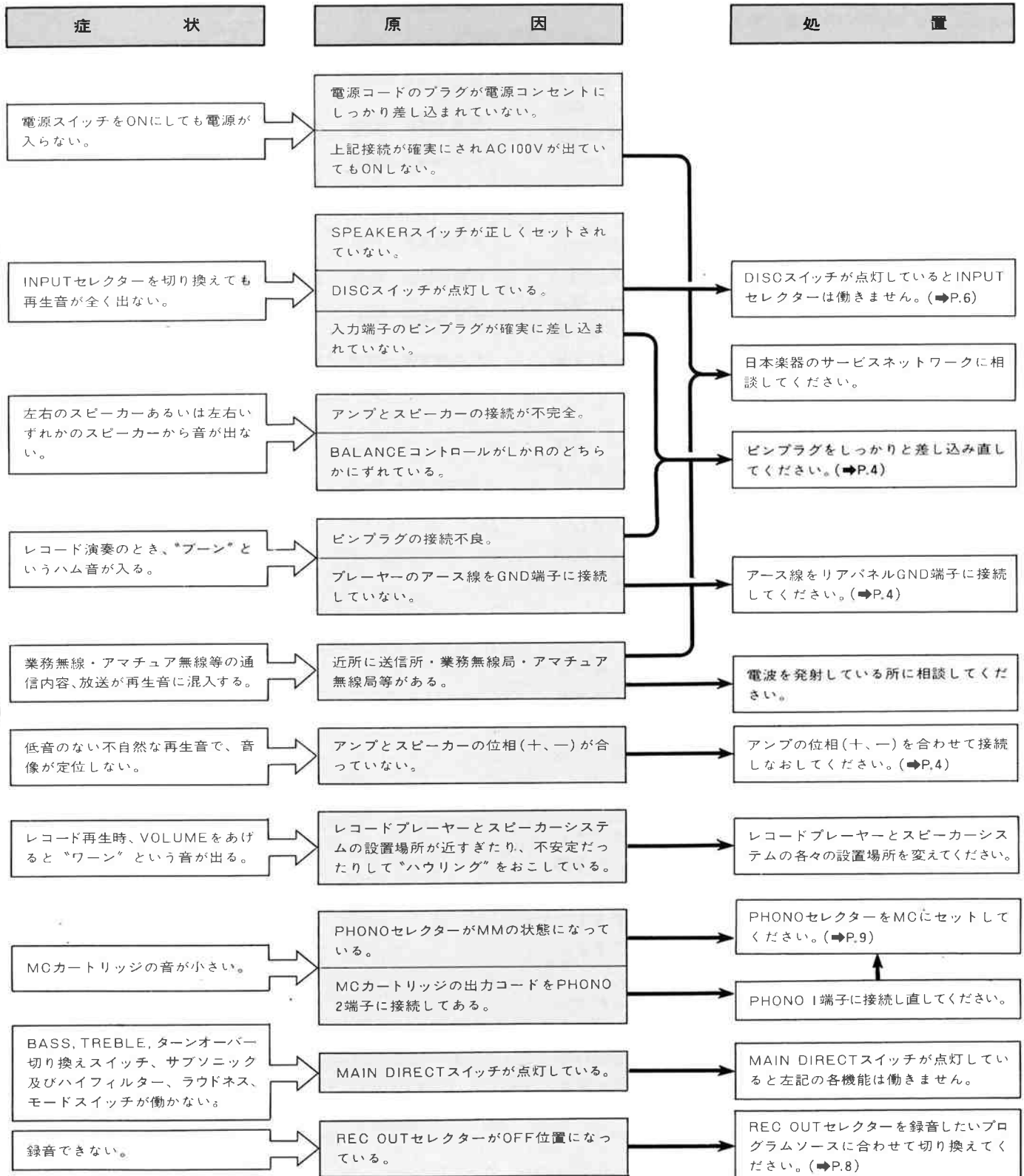
## 重量……………10.3kg

## 付属品……………六角レンチ (1.5 $\phi$ ), 1本

※参考仕様及び外観は改良のため予告なく変更されることがございます。

# 故障と思われるときには

本機をご使用中に正常に動作しなくなった時は、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りの日本楽器ステレオサービス係宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。



# サービスのご依頼について

●サービスのご依頼は、お買い上げ店、または日本楽器ステレオサービス係へお願い致します。

■ステレオの保証は、保証書によりご購入日から満1ヵ年です。尚、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。(日本国内のみ有効です。)

■保証期間の1ヵ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か右記、お近くのサービスネットワーク(ステレオサービス係)宛お問い合わせください。

## ■サービスをご依頼される前に

ご使用中に「故障ではないか」とお思いになる点がございましたら、まず本文中の「故障と思われるときには」(前ページ)をお読みになってください。意外と故障でない場合があるものです。(ご依頼をお受けしてお伺いしますと、故障でない場合でも点検代と出張費を頂戴させていただく場合もございますのでご注意ください。)

## ■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、お住まい、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(セットの具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客様にご迷惑をおかけしないですみます。)

## ■日本楽器ステレオサービス係への持ち込み修理

故障の場合、出張サービスのご依頼をなさらずに、直接ご自分でお買い上げ店、または最寄りの日本楽器ステレオサービス係へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお徳です。(右欄ステレオサービス係または日本楽器ステレオサービス係の所在地と電話番号をご参照ください。)

## ■ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。(あらかじめ補修部品などを手配し、早く、確実にサービスにお伺いできます。)  
※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

## ■サービスのお約束

昼間ご不在のお客様や留守がちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させて頂きたく存じます。万一、お約束した日時にご都合が悪い時には、できるだけ早くご連絡くださるようお願い致します。(出張料の二重負担が防止でき、お徳です。)

## ■サービスネットワーク(ステレオサービス係)

北海道事業所・〒064	札幌市中央区南十条西1丁目(ヤマハセンター内) TEL (011)512-6111
仙台事業所・〒980	仙台市1番町2丁目6-5 TEL (0222)23-3101
東京事業所・〒101	東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F) TEL (03)255-2241
浜松営業所・〒430	浜松市田町32(東京海上ビル5F) TEL (0534)54-4115
名古屋事業所・〒460	名古屋市中区錦1-18-28 TEL (052)201-5141
北陸出張所・〒921	金沢市泉本町7-7(ヤマハ金沢センター) TEL (0762)43-6111
大阪事業所・〒550	大阪市西区江戸堀1-9-1(肥後橋センタービル6F) TEL (06)445-6421
四国出張所・〒760	高松市西宝町2丁目6-44(高松センター) TEL (0878)33-2233
広島営業所・〒731-01	広島市安佐南区祇園町西原2205-3 TEL (08287)4-3787
九州事業所・〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092)472-2151

## 日本楽器製造株式会社

本社・工場	〒430・浜松市中沢町10-1 TEL・0534(65)1111	名古屋支店	〒460・名古屋市中区錦1-18-28 TEL・052(201)5141
東京支店	〒104・東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内 TEL・03(572)3111	北陸支店	〒921・金沢市泉本町7-7 TEL・0762(43)6111
銀座店	〒104・東京都中央区銀座7-9-14 TEL・03(572)3131	九州支店	〒812・福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL・092(472)2151
横浜支店	〒231・横浜市中区本町6-61-1 TEL・045(212)3111	小倉店	〒802・北九州市小倉区魚町1-1-1 TEL・093(531)4331
横浜店	〒220・横浜市西区南幸2-15-13 TEL・045(311)1201	北海道支店	〒064・札幌市中央区南十条西1丁目/ヤマハセンター TEL・011(512)6111
千葉支店	〒280・千葉市千葉港2-1/千葉中央コミュニティセンター内 TEL・0472(47)6611	仙台支店	〒983・仙台市原町南目薬師堂北2-1 TEL・0222(95)6111
関東支店	〒370・高崎市歌川町8番地/高崎センター内 TEL・0273(27)3366	広島支店	〒730・広島市紙屋町1-1-18 TEL・0822(48)4511
大阪支店	〒564・吹田市新芦屋下1-16 TEL・06(877)5151	浜松支店	〒430・浜松市出町32 TEL・0534(54)4115
心斎橋店	〒542・大阪市南区心斎橋筋2-39 TEL・06(211)8331	浜松店	〒430・浜松市鍛冶町122 TEL・0534(54)4111
神戸支店	〒651・神戸市灘合区浜辺通り6丁目1の36 TEL・078(232)1111	海外支店	ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ シンガポール・フィリピン
神戸店	〒650・神戸市生田区元町通2-188 TEL・078(321)1191		
四国支店	〒760・高松市西宝町2丁目6-44 TEL・0878(33)2233		

